

意外と身近な政治

児湯支会代表 鳥枝 奈央

「10代、20代の投票率過去最低!」、「選挙に無関心な若者たち」。選挙前、選挙後によく耳にする言葉です。

では、なぜ若者の投票率が悪いのか。私は次のように考えます。

まず1つ目は、「政治についてよく分からない」ということです。私自身、中学では社会、高校では公民を学び、民主主義や政治について学んだ記憶があります。しかし、各政党の考えや現在の政治の評価を学んだ記憶はありません。学校の先生は教育者の立場で中立でありますし、今思うと、選挙の重要性というのは生徒自身がそれぞれ考え、それぞれの意見を持つべきだとの考えもあったのだと思います。

2つ目は、10代や20代前半の人達は社会との接点が薄いという点です。税金や子育て、年金の公約を見ても授業・講義の中の世界であり「他人事」のように考えてしまうということです。人は社会に出て、税金や教育、年金について自分の事として捉え始めます。その経験が若者にはない為、他人事のように感じてしまうのです。

これらの考えが変わる出来事がありました。私が入庁して2年目のことです。社会福祉協議会の方と関わる機会があり、そこで「福祉とは何でしょうか」と問われ、私は「高齢者」「介護」「障害を持っている方への支援」と思い浮かんだことを伝えました。「正解だけど・・・どこか他人事だよ。福祉はね「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせなんだよ。」と教わりました。「福祉は身近なもので、他人のことではなく私のこと、私たち一人一人のことで人と人がお互いに支えあうこと」と学んでからは自分の暮らしに直結することや地区の活動や普段の仕事の中にも福祉を感じるようになりました。

この経験を得て、政治も同じだと気付きました。「政治についてよく分からない」という人達の中には政治家ごとの政策の違いが分からないと感じている人が多いです。もちろん多くの政治家が力を入れている政策として出てくる税金・子育て・年金も社会・政治の大事な部分だと思います。しかし、調べてみると様々なことに焦点を当てている政治家もいるのです。私は文化財の専門職員ですので、まず文化財の保護や文化資源に焦点を当て活動している政治家を探してみました。そうすると想像よりたくさんの政治家が出てきました。またマンガやアニメ・ゲーム等の表現の自由を守る為に活動している政治家もいらっしゃいました。

調べれば調べるほど政治も身近なことだと気づきました。「日本」や「社会」という大きな主語から「文化財」や「マンガ」、「ゲーム」といった主語になった時、それまでなんとなく投票していた私が、初めて自分の意思で投票できたのです。

私がそうだったように「政治は意外と身近かも」と気付くきっかけさえあれば投票率は上がると思います。

そのためには、政治という大きな括りで漠然と考えずに、自分の地域の事や興味のあること、大事なことから考えてみるのはどうでしょうか。

また、大人は子どもと一緒に投票所に行くことや、子どもに社会や選挙を意識させることが重要です。

皆さんが一生懸命考えて投票したその一票が私たちの未来をきっと明るくしてくれると私は思います。